



# まっこと ようきたねえ

第54回全国保育団体合同研究集会  
高知実行委員会

2022. 8. 18

0号



## こうち合研の窓がひらきました！



こんにちは！第54回全国保育団体合同研究集会の高知県実行委員会です。合研期間中、参加の皆さんに様々な情報や様子をお伝えしたいと思っています。この速報から会場の暑〜い様子もお伝えできたらいいなあ！と思っています。よろしくお願いします。

コロナ禍での今年の合研は、リモートと会場のハイブリッド開催になりました。手探りで準備を始めた高知県実行委員会の私たちですが、合研に向けての取り組みにも様々な工夫をしながら「立ち止まらず、やれる方向でやる！」を合言葉に保育でつながろうと準備を進めてきました。

そんな思いも込めて土佐弁で「まっこと ようきたねえ」（本当によく来てくれました）を速報名に決定！！全国の皆さんと今年もつながって暑い夏にしましょう。

では、早速オープニングの8月20日に先駆けて行われた分科会の様子をお伝えします！



### 障がいのある子どもの保育 A 分科会(8/7)

『障がいのある子どもの保育 A』の分科会に高知県の保育者約40名で参加し、保育者であるお二人の提案を聞かせて頂きました。橋本先生(埼玉)の提案では、支援を要する子ども・Tくんを入園から年長まで長い時間に渡り見守り関わってきた先生方の保育の内容や、大好きな絵本、行事を通してできることが増え自信に溢れるTくんの成長が語られていました。

兵頭先生(愛媛)は、ダウン症の子どもと向き合う中で手足の力が弱い故の介助の大変さや、子どもに思いに寄り添いながら共に喜び合うことの大切さをひしひしと感じられる提案となっていました。

二つの提案を通して改めて感じたのは、『思いを伝える・受け止めてもらえることって大事』というものでした。子どもの思いを受け止めることは当たり前にしていかなければならないことです。しかし自分自身の日々の保育を思い返し、子どもの思いを保育の中で形にできているかと考えると、十分にできていないのではないかと感じました。



受け止めるということは、ただ言葉を聞くだけではなく、子どもの思いに寄り添いながら安心して楽しく過ごせる環境づくりをすることだと思っています。障がいのある子どもは思いを言葉で表現することが難しい子も多いと思いますが、Tくんは思いを聞いてもらえる安心感や保育者や友だちと様々な経験を通して喜び合うことで成長に繋がったのだと思います。また、長い目で見て保育をしながら、園全体で見守ってもらえるその環境は子どもにとってはとても温かく、安心できる場所だったのでないでしょうか。今回の学びを通して、子どもの思いを受け止め保育者同士で試行錯誤しながら、子どもが楽しく安心して過ごせる保育をしていきたいと思っています。

(高知 岸 由子さん)



## 保育園の子育て支援 分科会(8/7)



福島県と山口県の子育て支援センターからの提案で参加者は35人でした！

福島県からは、地域に伝わるわらべうたあそびを活用しながら、親子が触れあう楽しさ、嬉しさを感じられる機会を持っていること、親子が向かい合って育ちゆく姿を支援者がどう捉え、サポートしたかという実践報告でした。

山口県からは、コロナ禍でもセンターとしてできることを模索しながら、孤立しない子育て、互いに支えあう子育てをサポートしてきたという実践報告でした。どちらの提案も写真を見ながらの報告でとてもわかりやすかったです。



参加者はセンター職員や保育所職員、地域支援担当など、それぞれ、立場は違っていました。親子支援の根っこは同じということで「そうそう」「へ〜」とうなずいたり、他県の取り組みに「もっと教えて!」「うちは・・・」と、活発に意見交換がされました。分科会終了後、全国の方々から沢山のうれしい感想が集まり、運営側もホッとしました〜！参加された皆さま、ありがとうございました〜！



(高知 隅田 望美さん)



8月13日(土)に4歳児分科会Bが行われました。全部で26枠32名の参加があり、兵庫県のポップ保育園の谷口さん、高知県安芸市のおひさま保育所の前田さんより、年間の保育を通しての取り組みや集団保育についての提案をいただきました。午後からはこれらの提案についての討論を行い、実践や悩みを出し合いました。

4歳の子どもたちは保育者が求めていることを理解したり、友だちへの見方が固定されやすくなったりすること、それに伴って「～しなければならない」という思いが強まるということ学びました。これらのことを念頭におき、友だちのつながり・仲間関係を大事に日々保育していこうと思いました。



(高知 尾崎 愛美さん)



みんなでつながるんるん♪